

ものづくりの発展に寄与する 多種多様な自動制御機器やロボットを提供

日本機材 株式会社



日本機材株式会社

空気圧機器をはじめとした自動制御機器やロボットの販売、近年は自動化のソリューション提案にも力を入れている日本機材株式会社を訪問しました。「信頼と活力」を経営理念として、常にお客様に寄り添った活動を展開されており、創業のきっかけや会社発展の経緯、人材育成戦略や今後の展開について、代表取締役社長の脇坂雄三氏にお伺いしました。

創業当時は苦難の連続だった

日本機材(株)は私の父である脇坂卓也が創業しました。父は太平洋戦争末期に広島に在住しており、学徒動員として軍需工場にて勤務中に原爆に遭ったのですが、爆心地にいたにも関わらず奇跡的に助かったそうです。しかし、家族が半分亡くなり、通っていた学校もなくなったため中退して職を転々としていました。戦後復興が進んだ頃兄と2人で東京へ出ました。東京でひたすら働いて資金を増やし、1960年代初頭に知人からの誘いを受け制御機器の会社を兄と設立しました。この会社はオートメーションの装置に使われるセンサー関係の機器を販売していました。当初は順調に成長していましたが、数年後には倒産してしまうこととなります。そこで兄とは別々の道を歩むこととなり、堺市に移り住んで4畳半2間の新たな暮らしを始めましたが、家計は苦しく債権者に押しかけられる日々を過ごしながらも再起の機会をうかがっていました。

そして迎えた1965年、焼結金属工業(現 SMC(株))の協力を得て日本機材を創業しました。これが当社の始まりとなります。創業当時は現在のアメリカ村(大阪市中央区)の一角にある6坪の部屋を事務所としておりました。最初の10年は非常に経営が厳しく、特に1973年の第一次オイルショックの 때가最も苦しい時期でした。それでも自動車関係の会社や、在阪の機械メーカーにお世話になりながら乗り越えることができました。

その後、京都・滋賀を中心とした半導体産業に進出して大きく業績を伸ばし、社会情勢の変化によって上昇したり下降したりはありつつも長年ご支援ご愛顧いただき、2015年には創業50周年を迎えることができました。

私が社長に就任してからも2008年のリーマンショックで経営危機に陥りましたが、「従業員のリストラはしない」という信念のもとに、苦しみを皆で一緒に分かち合っただけでやってきました。おかげでここまで会社として成長できたのではないかと感じています。

メーカー的な機能を担う事業所を設立

お客様のニーズに徹底的に応える

創業からしばらくは空気圧機器をメインに事業展開しておりましたが、20数年前よりロボットの販売にもいち早く取り組みました。ロボット事業を手掛けることで幅広い顧客層を獲得し、それに伴ってシステム受注も可能となりました。

そして、数年前に京都府木津川市にソリューションセンターを作ることができました。ソリューションセンターは豊富な在庫を有し、メーカー的な機能を担う複合センターで、お客様のニーズに徹底的に応えていこう、というのが原動力となっています。これが直近のターニングポイントとなり、今までにできなかった大きい取引をすることが可能となりました。当時はコロナ禍の



日本機材のNKソリューションセンターは、2020年8月、1万6500㎡の敷地に、物流拠点の西日本ロジスティクスセンターと併せて開設し、ロボットセンター(施設面積580㎡)、ものづくりセンター(同960㎡)がある。ロボットセンターは産業用ロボ、協働ロボ、AMR(自律走行搬送ロボット)などを展示し、研修や操作トレーニングのほか、ラボ機能を備え、実験・検証にも活用できる。ものづくりセンターは、設計・組み立て・検査の一連の設備を整備し、顧客注文に応じてユニット機器などを販売している。



代表取締役社長 脇坂 雄三 氏



会社ホームページへリンクします

日本機材 株式会社

事業内容：各種自動制御機器、産業用ロボット、協働ロボット及びシステム、並びに各種産業機械の販売及び輸出入、加工品の国内海外の調達、各種装置のユニット、モジュール、アルミフレームなどの設計製作及び販売、EC サイトの運営、機械器具設置工事業、各種共同開発事業

本 社：大阪市中央区安土町 1-8-15
野村不動産大阪ビル 8F

創 業：1965（昭和 40）年 5 月

社 員 数：491 名（海外含め 583 名）



NKソリューションセンター外観（京都府木津川市）

真っ只中でしたが、そのおかげで焦らず集中して計画を進めることができたのも追い風となりました。

木津川市は非常に人口増加が著しい地域でして、ソリューションセンターの目の前にある小学校に、昨年約 300 人の新 1 年生が入学しました。その小学校にプログラミングの出張授業を行うという形で地域貢献もさせていただいております。



仕入れ先企業と協力した見本市「Thank's(サンクス)展示会」を2021年から開催している。2023年7月19—21日の第3回サンクス展は、41社が出品し、ロボットやAIなどの技術・製品を出品した。3日間で客先から210社・562人が来場し、じっくりとユニークな新技術を吟味できる場となった。

社員のキャリアアップとコミュニケーションの活性化が会社の成長につながる

当社では新卒採用だけでなく、中途採用も積極的に行っていますが、今後は採用活動を片手間にやっているのでは厳しくなっていくと感じています。これまでは総務部の一部のメンバーで進めていましたが、今年の 4 月より採用活動を専門的に行う部署としてHR（ヒューマン・リソース）部を新設しました。入社から定年を迎えるまでしっかりとキャリアアップができる体制を整えたり、従業員皆のライフイベントに応じていったり、といった取り組みを進めていこうと考えています。

現代は少子化により生産労働人口が減少の一途をたどっています。ちょっと人が足りないから、または退職者が出たから誰か採用しよう、と簡単に

新入社員を採用できる時代ではないため、私たちが考え方をアップデートしなければなりません。現在私個人として心がけていることとして、管理職だけではなく若手社員も交えて一緒に食事をして積極的にコミュニケーションをとるようにしています。また、ソリューションセンターのオフィスではテリトリーフリーを導入することでコミュニケーション促進を図っています。



地域貢献の場にも役立つよう、2022年10月にロボットのプログラミング教室「プログラボ」を開校し、日本機材の社員らが講師役で運営している。近隣には国内有数のマンモス小学校があり、実践的なロボット拠点に併設しているプログラミング教室には、多くの児童が通っている。

創業60周年を迎え、

より社会貢献できる企業を目指す

当社は来年で創業 60 周年を迎えます。創業当時より本当に良いお客様に恵まれ、ここまで成長することができました。今後は更に会社を大きくしたいと考えておりますので、従業員も含めてより一層パワーアップして社会貢献していきたいと思っています。その上で創業 60 年企業に恥じぬよう、現場レベルでお客様のお役に立てるような企業を目指していきます。

一貴重なお話をいただき、ありがとうございました